

小学校教育現場でも注目される「あそび」の活用 小学生の体力向上を目指したあそび環境づくりをご紹介します

子どもの健やかな成長に寄与することを目的に、教育玩具の輸入・開発・販売とあそび環境開発を行う株式会社ボーネルンドは、小学生の体力低下が社会的課題となるなか、「あそび」を通じた運動不足解消を目指して、小学生を対象としたあそび環境づくりに積極的に取り組んでいます。今回は、当社が実施したあそび環境づくりの事例や、小学校の教育現場と連携している取り組みをご紹介します。

増加する「まったく運動をしない」子どもたち

近年、子どもの体力・運動能力の低下が問題視され、「あそび」の存在意義が高まっています。しかし、「ボール遊び禁止」「大声で騒がない」など公園の自由な利用が制限されていたり、少子化の影響で近所に遊び仲間がいなかったりと、子どもが体を動かして遊ぶ環境は十分とは言えません。

昨年12月に文科省が発表した「体力・運動能力調査結果」では、1週間の運動時間について、中2女子の23.5%が「0分」と回答。小5男女や中2男子でも運動時間が「0分」と答えた児童生徒の割合は2010年度の調査より増加しており、「まったく運動しない子ども」が増加傾向にあることがわかりました。幼児期に限らず学齢期にも日常的に体を動かすことは健やかな成長のために必要不可欠で、文科省では、友人と一緒に運動したり、気軽に体を動かせる環境を用意することが必要であると提唱しています。当社では子どもの運動不足解消に向けて、「あそび」を通して体を動かすことの楽しさや喜びを体感してもらうことが重要と考え、小学生向けのあそび環境づくりに積極的に取り組んでいます。近年では、教育現場においても体力向上のために「あそび」の重要性が見直され、当社と小学校が協同であそび環境づくりに取り組む事例も生まれています。

屋外遊びが制限されている福島の子どもたちへ屋内あそび場を提供

小学校高学年向け「ジュニア・アスリートエリア」が誕生（福島県本宮市「スマイルキッズパーク」）

ボーネルンドは、東日本大震災で被災した福島県本宮市において、2012年7月にオープンした大型室内あそび場「スマイルキッズパーク」をプロデュース。原発事故の影響で、屋外遊びが制限されている子どもたちの運動不足を解消するため、市の保健センターを室内あそび場に変更し、親子で体を動かして遊べる場を創設しました。広さ550㎡のあそび場は、全身を使ったダイナミックな動きを楽しめるエリア、砂遊びを楽しめるエリアなど、遊びの種類ごとに分けられています。震災以降の全国体力テストで、同県小学生の体力が低下傾向にあることを受け、昨年11月には、新たに小学生向けに作られた「ジュニア・アスリートエリア」が登場しました。同エリアは、走る・跳ぶ・登るなど、基本的な移動の動作を用いて建物に飛び移ったり、障害物を越えて効率的に目的地へ移動するフランス発祥のスポーツ「パルクール」の要素を取り入れ、より幅広い体の動きを引き出し、小学校高学年でも存分に楽しめるあそび場になっています。難易度の異なる壁の駆け上がりのスペースが一番人気で、様々な動作で移動することによって、瞬発力や持久力、体幹など基本的な体力や運動神経が身につく、より難易度の高い動きに挑戦するチャレンジ精神も養われます。平日には小学校の課外学習の場としても利用されており、「今までこんなあそび場は無かった」と、先生や保護者の方々からも大変好評をいただいています。



少子化による「あそび」不足に対する取り組み

統廃合による運動不足対策に大型遊具を導入（広島県三原市立久井小学校）

少子化の影響による統廃合で、昨年新設された広島県三原市立久井小学校では、多くの児童が遠方の学校へ通うため、登下校にスクールバスを利用しています。通学時間の増加によって放課後の遊ぶ時間が減少するほか、近所には一緒に遊ぶ仲間も少ない状況を受け、学校では子どもたちの運動不足をあそびで解消するため、体の動きを最大限引き出す当社の大型アスレチック遊具を導入しました。休み時間に子どもたちの遊ぶ様子を観察した結果*、ブランコやジャングルジムなど既存の遊具は一定時間遊ぶと他の遊具に移動する傾向が見られましたが、アスレチック遊具は、設計自体はシンプルな構造のため、自分たちで遊び方を考えて工夫したり、新しい遊びにチャレンジする子どもが多いことがわかりました。また、新遊具導入後は、子どもたちの1分あたりの歩数、運動量、総消費カロリー量が高くなったことから、一定時間内における運動効果も、既存遊具に比べて大きいことが明らかになっています。



*広島大学大学院教育学研究科 七木田敦先生による調査

体育の授業で「あそび」を取り入れた体づくりプログラムの実践

体の動きを引き出すあそび道具を活用（東京都中央区立久松小学校、足立区立足立小学校）

東京都では、さまざまな運動を通して「動き」を身に付けていくなかで、体を動かす楽しさを実感し、進んで運動に親しんでもらうことを目的に、体育の指導要領とは別に「運動遊び例集」を作成しています。集団で行うボールを使った遊びや、体のバランスをとる運動遊びを紹介している「運動遊び例集」を基に、中央区立久松小学校では体育の授業中にあそびを積極的に取り入れた「体づくり運動」を実施。低学年の体育では動作の種類を増やすために、子どもの力に応じたスピードが出る柔らかいボール「しわくちゃボール」、逆さまにしたプラスチック製のカップに両足を乗せて歩く「パカポコ」といった、当社が販売する玩具が採用されています。また、足立区立足立小学校でも、朝の休み時間を活用して、外遊びの日常化や基礎的な体の動きを習得する「元気アップタイム」の実施により、休み時間にすすんで動かして遊ぶ児童が増えています。児童と教師と一緒に体を動かして遊ぶ機会を増やし、遊び込むことで色々な動きを身に付け、子どもたちの体力向上を図っています。



しわくちゃボール



パカポコ

ボーネルンドとは

ボーネルンドは、あそびを通して子どもの健全な成長に寄与するため1981年に設立し、一貫して“あそびの道具と環境”を提供する事業を展開。一般家庭向け、子どもの成長に必要な生活道具としての“あそび道具”を提案、全国91カ所で店舗を展開しています。同時に幼稚園や保育園、公園などに高品質な大型遊具や教育道具の提供を含めたあそび環境の開発を行っており、現在までに手掛けた実績は国内約3万カ所まで拡大しています。また、2004年からは、子どもが遊ぶ機会を増やすために、親子一緒に様々なあそびを体験できる室内あそび場「キドキド」事業をスタート。現在全国18箇所、年間200万人以上の親子が訪れています。

【発行元・本件に関するお問合せ】

株式会社ボーネルンド 広報室 担当：讃井、村上

TEL：03-5785-0860 FAX：03-5785-0861

E-mail：sanui@bornelund.co.jp